

# 京の銘菓・老舗 5

京都で最も古い神社の一つ、下鴨神社(正式名称は賀茂御祖神社)。この境内に、かつて神前に供えた御餅を140年ぶりに復活させた茶店「さるや」があります。店主である株式会社宝泉堂の代表取締役社長の古田泰久さんを訪ねました。



「申餅」



「賀茂祭」  
下鴨神社にちなんだ  
葵文様のお菓子



「水室開き」

## 本物を伝えるための新製品、 「水室開き」

「さるや」では一年を通して販売されている申餅のほか、季節ごとのお菓子をいただけます。

さまざまな洋菓子が溢れる中で、次世代の子どもたちに小豆の美味しさを知ってもらおうと、

今年6月1日に新しい和菓子が登場します。その名は水菓子「水室開き」。水室とは、今で言う冷蔵庫です。その昔は、冬に降った雪を保存し、旧暦6月1日に「水室開き」という神事で水室を開け、雪をお上に献上していました。「水室開き」は、その神事で使われた桃の木の祓い串に見立てた水菓子です。一見、小豆入りのアイスキャンディのようですが、口に含むと、似て非なるもの。丹波の小豆の風味が口いっぱいに広がります。スティックは、古くから邪気を祓う霊力があるという『桃』の木で作られ、これも故事に倣うものです。

「私の一番の理想は、お菓子の原形となるものをきちんと作ることです。これからも本物を提供していきたいですね」と穏やかに語る古田さん。菓子匠以前に、氏子である思いが強いようです。歴史を伝えたい心が、往時の



菓子を今に蘇らせ、多くの人々に共感されています。

## 賀茂祭と申餅

下鴨神社は紀元前からの長い歴史を有し、ご祭神は、賀茂建角命とその娘の玉依媛命(ともに国宝)です。国家国民の安穏と世界平和を祈願する守護神であり、厄除、縁結び、安産などの御利益がある神様としても知られています。毎年5月15日に行われる葵祭(正式には賀茂祭)はあまりに有名で、斎王代に代表される平安貴族の装束の人々が、御所から下鴨神社、上賀茂神社に向かって練り歩きます。

かつてこの葵祭は旧暦4月の中の酉の日に執り行われ、前日の「申の日」には、小豆の茹で汁で搗いた御餅を神前に供されました。酉の日には、治道に集まった人々にその「御下がり」が振る舞われ、『葵祭の申餅』と呼ばれましたといひます。しかし時代が明治に入ると途絶えてしまいます。

## 140年ぶりに復活させた申餅

下鴨神社の近隣に店舗を構える和菓子の宝泉堂は、下鴨神社の氏子で、口伝によって伝承されてきた事実をもとに申餅づくりを進め、140年ぶりに復活させました。申餅は薄い赤色。「はねず色と言ひ、明け方の一瞬、空一面が薄あかね色に輝き、命の生まれる瞬間を表すとされています。身体を清め、無事息災に過ごせるようお祈りし、故事にならって復活させました」と古田さん。2011年5月15日に『さるや』がオープンし、申餅を供し始めました。この申餅は『さるや』だけで販売されています。「京都には連続と続いてきた歴史があります。菓子を通じて京都の歴史や伝統・文化を感じていただければ嬉しいですね。」



## 「さるや」

京都市左京区  
下鴨泉川町59  
下鴨神社 明橋休憩処  
TEL 090-6914-4300  
営業時間  
10:00~16:30  
年中無休

## 「宝泉堂」本店

京都市左京区  
下鴨膳部町21  
TEL 075-781-1051  
営業時間  
10:00~17:00  
定休日 日曜日・祝日

